

指導者 T1 井川 康平
T2 中村 公香
展開場所 体 育 館

1 単元名 F 武道 イ 剣道

2 単元について

(1) 一般的な特性

①機能的特性

- 竹刀を使い、基本となる技や得意技を用いて相手と攻防を展開しながら、互いに「一本」(有効打突)を目指して相手の構えを崩して打ったり、受けたりして勝敗を競い合う運動である。
- ・日本の伝統的な考え方や行動の仕方を新鮮な気持ちで学ぶことができる。
- ・自由練習(互格稽古)や簡易な試合で「一本」(有効打突)が決まった喜びを体感できる。
- ・相手と真剣な態度で向き合うことで、緊張感や集中力を味わうことができる。
- ・一対一で対峙することで、相手の表情や感情を感じることができる。
- ・礼法の実践を通して武道が持つ凜とした雰囲気を経験できる。
- ・大きな発声に驚いたり、戸惑ったりすることがある。
- ・剣道具の着装や礼法、すり足や両手で竹刀を握りながらの運動に違和感を覚えることがある。
- ・相手を打つことに躊躇し、打たれることに恐怖感を抱くことがある。

②構造的特性

- 相手の動きに対応し、対人的機能の中核とした攻防が展開されるため、相手を尊重し公正な態度と安全に留意して行動することが要求される運動である。
- ・剣道は、剣道具(防具)を着け、相対する二人が真剣に向き合い、竹刀を用いて攻防し、面、小手、胴、突きなどの「一本」(有効打突)を競う格闘形式の競技である。
- ・剣道は、打突する瞬間だけではなく、打つ前も打った後も油断しない身構え・気構えで「残心」を示す。これらの攻防の過程が重視され、過程と結果を総合して「一本」(有効打突)として評価される。これが剣道の持つ伝統的な考え方であり、その攻防から自分自身と向き合うことができる。

③効果的的特性

- 相手の人格を認め合い、礼儀作法などを重んじる、人間形成の面からも非常に効果的な運動の一つである。
- ・身体面…変化する相手と攻防をする中で、相手の動き全体から目を離さず、相手の目を見て真剣に向き合い、正しい姿勢と体さばきを身に付けることができる。
- ・技術面…上半身による竹刀操作、下半身の踏み込み、強い発声が一体となることで「一本」(有効打突)が打てる。これにより、発声と運動が密接に関わっていることや、心と体が一体として働いていることが体感できる。
- ・道徳面…相手と息を合わせて、打つ側と打たせる側が協同して技づくりを行うことや、互いに相手を尊重して攻防の展開を楽しむなど、互いに高め合うことの価値を理解できる。
- ・精神面…相手と向き合い接近する中で、自分の気持ちの変化を感じ取り、「間合い」や「気」の感覚を身に付けることができると同時に、相手に対して、どんなときでも油断しない「残心」の大切さを学ぶことができる。
- ・安全面…自分の身を守る大切な道具である剣道具の着脱や、竹刀の安全な取り扱いを学ぶことで、自分や仲間の安全や衛生面に問題が起こらないように配慮することができる。

(2) 生徒から見た特性

- ・「基本となる技」が習得できたときや相手の動きや技に対して攻防する技を習得したときに喜びが増す。
- ・対人での練習が多く、互いに教え合う機会が豊富にある。
- ・心身の鍛錬、礼儀正しい日本古来の武道で少し堅苦しいという印象もある。
- ・小学校では経験していない運動であるため、始めるときに難しく感じる生徒もいる。
- ・体格や体力に差があり過ぎると、活動の意欲が低下する傾向もある。
- ・打突を受ける際に怖い、痛いという先入観で、嫌う傾向にある。

(3) 生徒の実態 (男子15名、女子19名 計34名) ※アンケート実施 32名

積極的に授業に参加しようとする意識が高く各活動に活発に取り組む生徒が多い。技能を向上させようとする活動はしているものの、お互いの技能を見合い一緒に高め合おうとする意識は少ない。

体育の授業に意欲的な生徒が多く、休み時間なども校庭に出たり体育館などで身体を動かしたりすることが好きな生徒が多い。また、授業では指示されたことに対して、手伝ったり、最後までやり遂げたりする姿勢は見られるが、自分で考え主体的に行動しようとする生徒は多くない。

①体育の授業は好きですか。

はい 17名	どちらともいえない 11名	いいえ 4名
・体を動かすことが好き ・様々なスポーツに触れることができるから ・体力がつくから ・記録を更新することが嬉しいから ・協力して競技を楽しめるから	・内容によって苦手な種目があるから ・楽しいが、うまくできないときもあるから ・外に出ることが好きではないから ・運動が嫌いだから	・運動神経が悪い。(球技が苦手) ・チーム競技では迷惑を掛けてしまうから

②好きな種目は何ですか。(複数回答)

バレーボール 10名	バドミントン 23名	バスケットボール9名	サッカー 11名
陸上競技 9名	剣道 5名	水泳 10名	器械運動 6名

③剣道に対してどのような印象を持っていますか。

・難しいけど、自分の心を磨けるスポーツ ・相手がいるからできる ・日本ならではのスポーツ ・集中力が大切なスポーツ ・かっこいい ・精神を鍛えられそう ・緊張感がある ・すごい音を出す印象 ・礼儀を重んじる競技 ・竹刀でたたき合う	・打たれると痛そう ・難しそう ・防具が重そう ・少し怖いし、力の加減が分からず相手を傷つけてしまいそう
---	--

④剣道の授業を通してどんな力を身に付けたいですか。

- ・何事にも一生懸命取り組む力
- ・伝統文化を尊重し大切にする力
- ・真剣に取り組む力
- ・自分に合っためあてを立てる力
- ・何事にも全力でできる力
- ・協力する力
- ・自分だけでなく、他者も尊重する力
- ・勝っても、負けてもしっかり挨拶する礼儀
- ・恥ずかしさを捨てて、大きな声を出せるようにする
- ・竹刀の使い方
- ・瞬発力
- ・普段の部活にも生かすことのできる力
- ・正しいルールを身に付ける
- ・礼儀正しい作法や所作
- ・人の話を聞く姿勢
- ・励まし合える心
- ・思いやりの心
- ・試合やゲームなどでの勝負強さ
- ・恐怖心をなくす

⑤あなたは、誰に対しても人格（個性）を尊重し、公正・公平な態度がとれますか。

できていると思う	19名	できていないと思う	2名	分からない	11名
----------	-----	-----------	----	-------	-----

⑥他者に対して思いやりの心を持って行動できますか。

できていると思う	23名	できていないと思う	2名	分からない	7名
----------	-----	-----------	----	-------	----

⑦教え合ったり、励まし合ったりして、協力したりする学習ができていますか。

できる	20名	仲の良い人とならできる	11名	できない	1名
-----	-----	-------------	-----	------	----

⑧あなたは、自分の考えを他者に伝えることはできていますか。

できる	15名	仲の良い人とならできる	11名	できない	6名
-----	-----	-------------	-----	------	----

⑨これまでの学習で自分の考えを他者に伝えることで得た成功体験を教えてください。

- ・跳び箱でアドバイスをしたら、5段が跳べるようになった。
- ・跳び箱で、「手を奥に着くと、キレイに跳べるよ」と伝えたら、できるようになった。
- ・マット運動で、Y字バランスをやっていた時に自分なりのコツを伝えたら、できるようになって嬉しかった。
- ・ソフトボールで、「もっと下からボールを捉えればいいのでは」と伝えるとうまくボールを捉えることができてきた。
- ・走り幅跳びで、「腕を使うとよい」とアドバイスを伝えたことで跳ぶことができた。
- ・ハードルで、「上に跳ぶより、前に跳ぶ意識だよ」を伝えたら、0.3秒タイムが伸びた。

⑩体育の授業で技術面における課題解決のための具体的な「めあて」が立てられていますか。

できる	18名	あまりできない	9名	立てるのが難しい	5名
-----	-----	---------	----	----------	----

アンケート結果から、剣道に対して「精神が鍛えられそう」「礼儀を重んじる競技」というイメージを持っている生徒がおり、日本古来の武道という印象があることが分かる。また、「自分だけでなく、他者も尊重する力」、「勝っても、負けてもしっかり挨拶する礼儀」など授業を通して身に付けたいという肯定的な意見を持っている生徒もいる。その反面、「打たれると痛そう」、「難しそう」などの不安を持っている生徒もいる。生徒にとって身近な種目ではないからこそ、楽しさや喜びを感じづらい単位でもある。

誰にでも自分の考えを臆せず伝えることや、協力して学習に取り組むことができる生徒は学級の半数で、残り半数は特定の友達ならできると回答している。自分の成功体験から、他者に考えを伝える喜びを知っている生徒もいることが分かった。

(4) 指導観

剣道は、日本の伝統文化であるが、テレビで見たり、実際に触れたりする機会が少ない。そのため、ほとんどの生徒が中学校に入って初めて取り組む単元である。日常的に味わうことのできない動きがあり、基本動作の確認やルール、防具を装着するなど、普段の体育学習とは違う雰囲気の中で、剣道ならではの楽しさや喜びを味わわせたい。

剣道は、「礼で始まり、礼で終わる」と言われているため、技術面以上に礼儀作法に力を入れて、相手を尊重する態度をきちんと身に付けさせる。同時に、授業の始めと終わりに行う、「着座→黙想→礼」を通して、生徒の礼儀を重んじる心・人格の形成を図っていききたい。

基本動作を復習しながら、対人技能（基本打ち、応用技等）を習得し、技能の程度に応じた練習をチームで行う。グループでの活動を行うことにより、仲間と協力して、教え合ったり、お互いの課題を見つけたり、課題解決できるようにする。また、タブレットを活用し、生徒同士での撮影や分析を通して、ポイントやつまずきなどを理解する。そうすることで、個の技能が高まるのではないかと考える。中学生のルールの禁止事項を守り、活動場所の安全を確かめるなど、安全面に留意して活動ができるようにする。

3 単元の目標

- 相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの簡易な攻防をすることができるようにする。（知識及び技能）
- 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）
- 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）

4 評価規準

	知識	技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめごとの評価規準	・武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。	・剣道では、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの簡易な攻防をすることができる。	・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどをしたり、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ったりしている。

単元の評価規準	①武道は対人的な技能を基にした運動で、我が国固有の文化であることについて、言ったり書き出したりしている。 ②武道には技能の習得を通して、人間形成を図るという伝統的な考え方があることについて、言ったり書き出したりしている。 ③武道の技には名称があり、それぞれの技を身に付けるための技術的なポイントについて、学習した具体例を挙げている。 ④高まる体力は、武道の種類でそれぞれ異なることを踏まえ、剣道において向上する体力について、学習した具体例を挙げている。 ⑤試合の行い方について、ごく簡易な試合におけるルール、審判及び運営の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。	○基本動作 ①構えでは、相手の動きに応じて自然体で中段に構えることができる。 ②体さばきでは、相手の動きに応じて歩み足や送り足を行うことができる。 ③基本の打突の仕方と受け方では、中段の構えから体さばきを使って、面や胴（右）や小手（右）の部位を打ったり受けたりすることができる。	①提示された動きのポイントやつまりきの事例を参考に、仲間の課題や出来栄を伝えている。 ②提供された練習方法から、自己の課題に応じた練習方法を選んでいる。 ③学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 ④練習の場面で仲間の伝統的な所作等の良い取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。 ⑤体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や簡易な試合を行う方法を見付け、仲間に伝えている。	①武道の学習に積極的に取り組もうとしている。 ②相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 ③用具等の準備や後片付け、審判などの分担した役割を果たそうとしている。 ④一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。 ⑤禁じ技を用いないなど、健康・安全に留意している。
----------------	--	---	--	--

5 指導と評価の計画

	過程	習得						まとめ
		1	2	3	4	5 (本時)	6	7
	時間							
学習の流れ	0	1 オリエンテーション	1 準備・集合・整列・挨拶					
			2 準備運動・リズム剣道					
			3 本時のねらい（学習課題）の確認					
	10	・学習内容の確認 ・安全指導	4 基本動作 ・打ち方 ・打たせ方	4 総合練習 ・掛かり練習	4 チーム練習 「体さばき」「間合い」「素振り」など			
	20	2 感覚づくり ・かけ声 ・新聞切り ・ボール打ち	5 約束練習 ・相手の隙を見付ける ・掛かり練習	5 試合の進め方 ・試合方法 ・審判方法 ・礼法	5 チーム内戦	5 チーム内戦	5 団体戦①	5 団体戦③
	30	3 剣道具着装	6 実践練習①	6 実践練習②			6 アドバイスタイム 自分たちで撮影した動画などを確認しながら課題やつまずきを基に話し合い、次戦の作戦を立てる	
	40						7 団体戦②	7 団体戦④
	50	振り返り・整理運動・片付け						
指導と評価の機会	知	知①②観察		知③観察	知⑤観察			知④観察・学習カード
	技		技③観察 技①観察				技②観察	→
	思			②観察	④観察	①観察・学習カード	③⑤観察	
	主	②観察 ①③観察				④観察		⑤観察・学習カード →

※知・・・「知識」 技・・・「技能」

思・・・「思考・判断・表現」

主・・・「主体的に学習に取り組む態度」

6 本時の指導（5／7）

（1）目標

◎提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来栄を伝えることができるようにする。
(思考力、判断力、表現力等)

◎一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めることができるようにする。
(学びに向かう力、人間性等)

（2）展開

過程	時間	学習内容と学習活動	指導・支援、○評価（観点）【方法】	用具・資料
はじめ	5分	1 整列・挨拶・健康観察 2 準備運動・リズム剣道 ・素振り ・足さばき	・心を落ち着かせ、着座→黙想→挨拶ができるようにする。(T1) ・正座が厳しい生徒には無理をさせず安座をしてもよいことを知らせる。(T2) ・生徒の健康状態を確認する。(T1) ・基本となる動きを意識しながらリズムに合わせて運動を行えるよう指示する。(T1、T2)	単元計画表 アンプ BGM 掲示用資料 剣道具 竹刀 手拭い 学習カード
	5分	【見いだす】 3 学習内容を理解する。 本時のねらい		
なか		仲間の技が一本（有効打突）の条件を満たすためには、どうすればよいだろうか		
		※ 一本（有効打突）の条件 充実した氣勢（声）、適正な姿勢をもって竹刀の打突部（物打ち）で打突部位（正面、小手、胴）を刃筋正しく打突し、残心あるものとする。 [全日本剣道連盟 審判規則第12条] ・ねらいを基にチームや個人のめあてを考える。	・本時のねらいを提示し、見通しを持って取り組めるようにする。(T1) ・チームのめあてを基に個人のめあてを考えるように助言する。(T2) ※めあてを立てることが難しい生徒には、前時を振り返り、できた技がより決まるようにする手立てを考えようと助言する。	ホワイトボード 学習カード
	10分	【自分で取り組む】 4 個人のめあてや本時のねらいを基にチーム練習を行う。 ・面、小手を速やかに着装する。 ・一本（有効打突）の条件を確認したり、自分の技を動画等で確認したり、チーム毎に練習を行う。	・前時を振り返り、その課題を練習に生かし取り組むことができるようにする。(T1) ・リーダーを中心に積極的に活動するように声をかける。(T1) ・練習から課題を見つけ把握できるように助言する。(T2) ・一本に繋がる動作になるように助言する。(T1、T2) ・技が決め切れない生徒に対し、次の動作がうまくいかない場合、既習技を思い出すよう助言する。(T1)	学習カード タブレット アンプ BGM

20分	【広げ深める】 5 チーム内戦 ＜ルール＞ ・ 3人又は4人一組によるチーム内戦（個人戦）を8回行う。 ・ 試合時間は45秒 ・ アドバイスタイム1分 ＜判定基準＞ ・ 大きな声（気） ・ 打突部で打突部位を捉える（剣） ・ 姿勢、体、足の出と残心（体） ＜役割＞ ・ 審判：1名 ・ 試合者：2名 ・ タブレット撮影者：1名（3人のチームは机に置いて撮影） ・ 主審は大きな声で号令を掛ける。 ・ 気迫の込もった大きな声で勝負する。 ・ 積極的に一本を取れるように攻める。 ・ チャンバラ打ちにならないように上下振りを意識し、不用意に横に振らないように意識する。 ・ 刃筋を正して、弦と反対側の物打ちで捉える。 ・ 相手との間合いをとり、一足一刀の間合いを維持できるように取り組む。 ・ 個人のめあてを意識して取り組む。 ・ 仲間の試合をタブレットで撮影する。 ・ 仲間の頑張りを応援する。 ・ 打突した後に残心をする。 残心：打突後、いつでも相手に対応できる気構え、身構え ※アドバイスタイム 仲間のどういった所が良い点か、弱点は何かなど、チームごとに自分の考えを伝え、疑問点を確認する。 多様な考えを理解し、次戦に生かせるようにする。 前の試合を振り返り、個人の課題を明確にし、次の試合に生かせるようにする。	タイマー 学習カード ・ 礼法や所作に留意して、互いに相手を尊重して公正な態度で行うよう声をかける。（T1） ・ 試合の目的は、今まで学習してきたことを十分に発揮し公明正大に勝敗を競い合い、有効打突を判定してもらうことを理解できるようにする。（T1） ・ 判定は迷うことなく大きな声で宣告できるように指示をする。（T2） ・ 声を掛け合ったり、認め合ったりしている生徒を称賛する。（T1、T2） ・ 有効打突を意識して大きな声で打っている生徒を称賛する。（T1、T2） ・ チーム内での役割分担を明確にし、試合運営等協力して行わせる。（T2） ○提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来栄を伝えている。 （思考、判断、表現） 【観察・学習カード】 ・ 有効打突の条件が理解不足のため他者に助言することができていない。 →打突部位の位置などを再確認すると共に、正しく判定し、個に合った助言ができるようにする。 ※自分の役割を確認し、試合を行う際は、大きな声で試合に挑めるように声をかける。 ・ 速やかにアドバイスタイムを行うように声をかける。（T1、T2） ・ 自主的に話し合い活動ができるように促す。（T1、T2） ・ 課題を生かし取り組むことができるようにする。（T1、T2） ・ コメントをうまく考えることができないグループには、チームや個人のめあてを意識するよう助言する。	学習カード ホワイトボード
-----	---	---	--------------------------

7 場の設定



8 板書計画

